

令和6年度 国立夜須高原青少年自然の家教育事業

夜須高原ファミリーキャンプ①

『 竹の子掘りに家族で挑戦！ 』

【実施報告】

1. 趣 旨 夜須高原の里地里山に及ぼす竹害の現状に触れ、竹を活用した自然体験や生活体験の中にSDGsの視点を取り入れ、家族で持続可能な社会づくりについて楽しく学ぶことを目的とする。また、活動を通して、親子の絆や参加者同士の交流を深める場を提供する。

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3. 期 間 令和6年4月27日(土)～28日(日)

4. 場 所 国立夜須高原青少年自然の家(福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103)

5. 参加者 55名(16家族)

6. 活動様子

6-1. 里地里山ウォークラリー



6-2. 竹の子掘り



6-3. 竹細工作り



## 7. 感想

### ①プログラムに関すること

- ・アクティビティが多く、学びも多くよかったです。
- ・竹害と里山を守る苦勞について実感しました。
- ・ナタ、ノコギリなど、道具を使う体験ができて勉強になりました。
- ・竹の子掘りから竹細工、試食まで一連の流れが体験できて楽しかったです。
- ・ウォークラリーではチェックポイント毎に子どもと会話ができて、学びになりました。

### ②事業全体に関すること

- ・小さな子連れの家族にも配慮してもらい、ありがたかったです。参加者さんやスタッフさんがきさくで親切で、楽しく過ごすことができました。
- ・子どもも大人も気付きや楽しみがあり、充実した2日間でした。夜須高原の家は面白い体験が多いので、友達にも個人的に薦めています。
- ・子ども達は就寝間際まで体育館で、新しくできたお友達と遊べてとても楽しかったようです。久しぶりに森を歩き、リフレッシュすることができました。家族で貴重な体験をさせていただきました。また参加したいです。

## 8. 成果

本事業を通して、参加者は里山の景観を楽しむとともに、夜須高原の森に及ぼす竹害の影響について考えることができた。竹の子を掘ったり、竹を活用したりすることが、森を管理し、守ることになり、よりよい森や水の循環につながることに気づくことができたのではないかと思う。

竹細工作りでは、親子で協力し、一つのものを作り上げることで、親子の絆づくりにつなげることができた。ナタや鋸を使う難しい作業ではあったが、積極的に子どもが取り組む姿が見られた。竹の子掘りでは、用具や掘り方、切り方の説明を行い、安全に活動を行うことができた。子どもが見つけた竹の子を、親子で掘り上げた表情には、達成感や喜びを感じることもできた。竹の成長の速さにも驚いていた。夜のレクリエーションでは、各ファミリーが自由に交流する時間につなげることができた。

未就学児の参加が多い状況で、スタッフやボランティアがマンツーマンで支援に当たるなど、事前に当該家族への支援を準備しておくことで、安心して活動に取り組んでいただくことができた。

日頃体験できない自然体験活動の中で、親子ともに目を輝かせ、とても楽しそうな表情を見ることができた。親子の絆や子どもたち一人ひとりの豊かな感情の醸成につなげることができた。

## 9. 課題

里地里山ウォークラリーでは、夜須高原の景観と竹害について触れることができた。今後、幼児でも学べる森の循環や水の循環について、里地里山ウォークラリーの展開を考えたい。竹細工では、竹箸とともに、子どもが手軽に作って遊べる竹楽器を作れるよう準備を行いたい。

今回は16家族55名の参加に対して、スタッフ5名、ボランティア2名での対応を行った。今後、さらに多くの家族に安全を確保した上で楽しんでもらえるよう、スタッフ及びボランティアの数、活動内容・場所等を検討していきたい。